

7 平成 30 年度 事業のまとめ

横浜市立図書館では、横浜市立図書館アクションプラン（第2期）に基づき、毎年「図書館の目標」を策定し、ホームページなどで公開しています。平成30年度は、アクションプラン及び図書館の目標に基づき、以下の事業を実施しました。

（重点項目1）市民の読書活動を支える図書館

（1）地域特性に応じた読書活動の推進

- ・戸塚図書館（40周年）、泉図書館（30周年）、栄図書館（30周年）が、周年事業を実施しました。（P.33 表(4)）
- ・各区の読書活動推進目標に基づき、区や区内施設と連携したおはなし会・講座等のイベントを開催しました。また、区民まつり等へ参加し、区との連携を進めました。
- ・各区の地域性に応じ、認知症の理解を深める取組を行いました。

【認知症の理解を深める取組（主なもの）】

図書館名	内容（タイトル）	開催日	参加人数
中央	展示「認知症を知る」	8/21～9/17	—
鶴見	認知症サポーター養成講座	3/15	18人
港北	展示「不思議な脳と認知症を知る本」	6/1～6/30	—
	認知症サポーター養成講座	6/29	18人
	連続講座 認知症のイメージを変える図書館のつどい （大豆戸地域ケアプラザ主催、港北図書館共催）	8/31	40人
		9/27	43人
10/26	74人		
都筑	展示「知ることから始めよう～認知症・介護予防の本」	8/30～9/17	—
栄	展示「皆で知ろう！自殺予防、認知症、がん検診、結核のポイント」	9/5～9/28	—

（2）家庭での子どもの読書活動の支援

- ・図書館でのおはなし会や、地域施設等での出張おはなし会を実施しました。実施にあたっては読み聞かせボランティアの方に活躍していただきました。（開催1,954回、うちボランティア参加1,232回）（P.34 表(5)）
- ・子育て支援の講座として、保護者・市民向け読み聞かせ・わらべうた等の講座を実施しました。（61回、延1,252人参加）（P.35 表(6)）
- ・家庭での読み聞かせに向く乳幼児絵本のリスト「おひぎにだっこで楽しむ絵本」を作成し（30,000部）、区役所の乳幼児健診や事業等で配布しました。



（3）学校への支援と学校教育への協力

- ・学校司書研修等に講師として司書を派遣し、学校司書育成を支援しました。（研修6回）
- ・学校向け支援プログラムを各図書館で作成し、区内の小・中学校に対し、教職員向け貸出や図書館見学等の支援サービスを実施しました。（P.22 表(12)）
- ・学校向けセット貸出図書（※）について、新しいテーマの追加や既存テーマの内容を更新しました。（新テーマ1種、既存テーマの内容更新1種、既存テーマの追加1種）
- ・学校図書館への支援として、「新刊案内：図書館から学校におすすめの本」の定期的な情報提供を

行いました。

- ・学校図書館の現状や公共図書館に対するニーズを把握するため、西区の学校図書館を訪問し司書教諭や学校司書にヒアリングを行いました。(6校)

※学校向けセット貸出：学校の授業で取り上げることが多いテーマ等について、テーマごとに20冊から40冊程度にまとめて貸出をしています。

(4) 地域の読書活動への支援

ア 読み聞かせ等ボランティアの育成と支援

- ・地域で活動するボランティア向けに、読み聞かせ講座等を実施しました。(P.35 表(7))
- ・図書修理や書架整理など、図書館の環境整備にボランティアが活躍しました。(P.35 表(8))
- ・中区内の企業や団体が読書の秋を盛り上げるために開催する一連の取り組みを「なか区ブックフェスタ」と総称しており、その実行委員長が20年以上にわたる中区での読み聞かせ等のボランティア活動の功績により、神奈川県図書館協会から功労者として表彰されました。



戸塚 ボランティア交流会

イ ボランティア交流会等の実施

図書館や地域で活動するボランティアの交流会や懇談会を実施しました。(P.37 表(10))

ウ 横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム@旭区

2月17日(土)に、二俣川地域ケアプラザを会場として、横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム@旭区を開催しました。図書館は公開読書会への協力、旭区の新しい読書活動推進目標を創るワークショップなどを行いました。

(教育委員会事務局主催 来場者数延400人)



横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム@旭区
「<公開読書会>さんねんないきもの事典」

(5) 障害のある方への情報提供支援

- ・30年度は中央図書館で製作した録音図書を、国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスに121件登録しました。ダウンロード件数は延べ8,721件となりました。
- ・29年度に引き続き障害の有無に関わらず、障害について考えるきっかけづくりや関連の図書館資料を紹介する企画事業を実施しました。
- ・28年度の養成講座を修了した視覚障害者向け録音図書音訳者に対して、29年度に続き30年度もフォローアップ研究会を開催しました。26人が8月を除く毎月の研究会に参加しました。

【障害についての企画事業】

事業名	開催日	内容
生きている本から学ぶ～ ヒューマンライブラリー	12/2	障害者週間に先立ち実施しました。2020年にオリンピック・パラリンピックを控えていることから、障害者スポーツに関わる人を「生きている本」として迎え、お話を伺いました。

（重点項目2）地域の情報拠点としての図書館

（1）市民の課題解決と読書活動に役立つ資料の収集

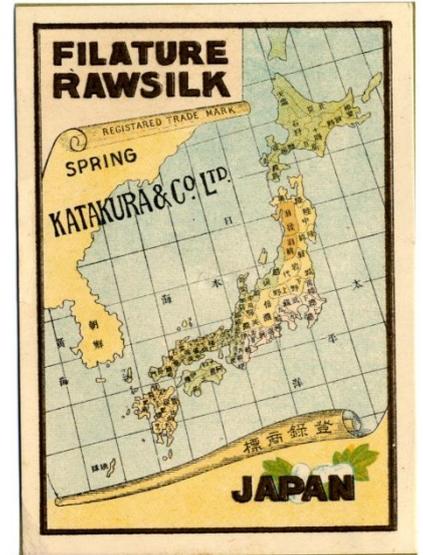
横浜市立図書館蔵書5か年計画に基づき、各館ごとに年間資料収集計画を策定し、資料の収集を行いました。

（2）資料の活用と情報発信

ア 中央図書館の主な取組

- ・デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」に、デジタル化資料を追加・公開しました。（252点）
- ・所蔵資料を活用した展示を実施し、関係機関と連携・協力することで展示内容の多様化及び充実を図りました。（76回）
- ・各区局や出版社、テレビ番組制作会社などからの申請を受け、市立図書館で所蔵している貴重資料の画像データを提供しました。提供したデータは、横浜市の広報や書籍、テレビ番組などで活用されました。

《都市横浜の記憶》追加資料より
【生糸商標】「片倉製糸」



【中央図書館所蔵資料を活用した主な企画展示】

展示名	期間	内容
明治の浮世絵色とりどり	9/19～10/8	平成30年に「明治150年」を迎えることに関連し、幕末・明治期の浮世絵コレクションを展示。 会場：中央図書館1階展示コーナー
本でつながる横浜と上海 姉妹友好の本棚から	10/10～11/18	横浜と上海の友好都市提携45周年を記念し、上海図書館との交換図書等を展示。 会場：中央図書館3階展示コーナー
貴重資料ミニ展示	通年	「明治横浜の西洋花火」・「横浜開港と絵双六」など、毎月テーマを決め、開港期や明治時代に発行された所蔵資料を展示。 会場：中央図書館3階



企画展示「明治の浮世絵色とりどり」



企画展示「本でつながる横浜と上海」

イ 地域図書館の主な取組

図書館名	内容	時期
鶴見	鶴見区制 90 周年記念鶴見歴史写真パネルの貸出開始	4 月
中	開館 30 周年に向けた航空写真の収集	通年
港南	収集した写真のパネル展開催	12/14～12/23
緑	区と連携した郷土写真の収集	通年



鶴見区制 90 周年記念鶴見歴史写真パネル



港南図書館の展示

(3) 市民の学習活動・課題解決の支援

- ・様々なテーマによる図書展示を実施しました。「医療・健康情報コーナー」での健康関連テーマ、「ビジネス資料コーナー」における業界関連テーマなど、コーナーの特徴に合わせた展示の他、本市区局との連携による事業啓発や、物故者追悼など、時宜をとらえたテーマ設定に努めました。(通年)
- ・横浜市立図書館蔵書検索ページ内「レファレンス検索」及び、国立国会図書館レファレンス協同データベースにレファレンス事例を追加・公開しました。(36 件)
- ・本市区局及び専門機関と連携し、「ヨコハマライブラリースクール」等の講座を実施しました。(P. 29)
- ・調べ方のヒントやテーマ別の図書リスト、蔵書検索では探しにくい資料の目録を作成しました。利用者向けの他、横浜市職員の業務に役立つリストの作成にも取り組みました。(新規 16 点、改訂 17 点) (P. 36 表(9))
- ・事業の実施にあたっては、企画展示・講座・ブックリストなどを積極的に組み合わせ、多様な切り口からの学習支援・情報発信に努めました。



図書展示「図書館で創業を考える」



ヨコハマライブラリースクール

(4) 人材育成の推進

平成 28 年 3 月に策定した「司書職人材育成計画」に基づき、司書の専門的能力向上のための研修を 45 回実施しました。

(重点項目3) 誰もが使いやすい図書館

(1) 広域相互利用の実施

横浜市と隣接する 7 市のうち 5 市（鎌倉市・横須賀市・川崎市・藤沢市・大和市）と広域相互利用を実施しています。これにより、横浜市在住の方が各市の図書館から直接本を借りられます。

(2) 山内図書館の指定管理者による運営

横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会を 4 回開催しました。

(3) 利用者懇談会等の開催

市民の意見を反映した図書館運営を進めるため、各図書館で懇談会等を開催しました。(P. 37 表(10))

(4) 自主財源の確保及び経費の節減(広告事業)

ホームページのバナー広告掲載、館内のパンフレットラックの設置、広告を掲載した印刷物の製作などの図書館広告事業による平成 30 年度の歳入額は 4,297 千円、節減額は 682 千円でした。

(5) 横浜サポーターズ寄附金(ふるさと納税)

平成 30 年度、「横浜サポーターズ寄附金」による寄附制度を開始しました。いただいたご支援は子どもの読書や学習活動を豊かにする図書の購入に活用します。

【コラム 図書館の表彰】

平成 30 年 4 月、鶴見図書館が「平成 30 年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰」を受けました。この表彰は、子どもの読書活動について特色ある優れた実践を行っている学校・図書館・団体及び個人に対し、その実践をたたえるものです。横浜市の図書館では、平成 28 年度の都筑図書館に続き 2 館目の受賞です。

鶴見図書館では、3つの年齢別のおはなし会を定期的に実施するほか、ボランティアスタッフによる乳幼児健診での子育て支援事業の取り組みを定着させ、年間 3,000 組を超える親子に絵本やわらべうたを紹介しています。また、外国につながる子どもへの支援に積極的に取り組むなど、地域との連携で多岐にわたる児童サービスを展開し、児童書の貸出冊数の増加という点でも成果をあげました。



鶴見図書館 ボランティアスタッフと職員